

外国人のための漢字学習項目 およびテスト項目の分類

加納千恵子

筑波大学留学生センター

日本語を学習している外国人にとって、漢字を習得するために学習するべき項目は、漢字の読みと書き(字形)だけではない。特に、非漢字圏からの外国人学習者にとって漢字は、1)字形、2)読み、3)意味、4)用法(語中での用法と文中での用法)という4つの情報を担う非常に情報量の多い文字であり、それらの情報を互いに関連づけて覚えることが不可欠である。しかし、従来の漢字教育においては、漢字学習は学習者の自学自習に任されることが多く、専ら漢字の読み書きに時間を費やして効率が上がらないことが多かった。また、漢字のテストも、主に漢字の読み書きを評価する形で考案されてきた。本稿では、外国人の初級者向けに開発された漢字教材とテストにおける学習項目・評価項目を上記4情報の関連づけという観点から調査し、分類・整理を試みた。

Classification of Kanji Learning Items and Kanji Testing Items for Foreign Students

Chieko KANO

International Student Center, University of Tsukuba
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, 305 JAPAN

In order to master kanji it is not enough for foreign students to learn only readings and shapes of kanji. Kanji carry four kinds of information; 1) shape, 2) reading, 3) meaning and 4) word and sentence usage. Students should learn each by relating one to the other. Most traditional ways of teaching kanji, however, are highly dependent on the students' self-study and require them to memorize mainly readings and shapes of kanji. Those ways of learning kanji are time-consuming but not so efficient. Most traditional kanji tests are also designed to check the reading and writing ability of students. In this presentation, the author analyzes a number of kanji tests and workbooks for beginners and tries to classify testing and learning items into 57 types.

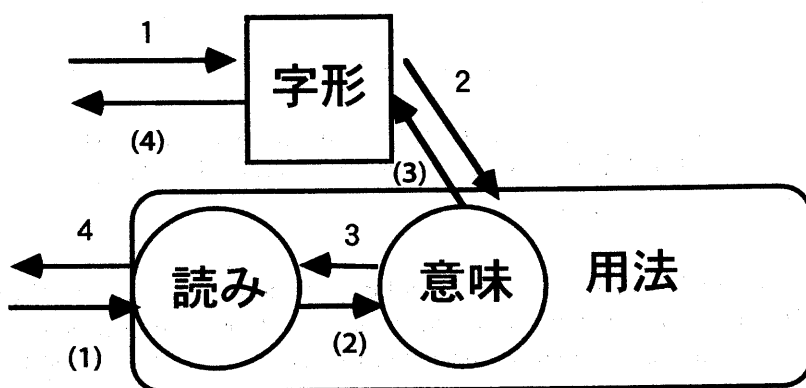
1. はじめに

日本語を学ぶ非漢字圏からの外国人学習者にとって、漢字の習得は最も難しいことのひとつと言われている。漢字は、仮名文字やアルファベット文字などと比べて格段に複雑な「字形」を持つ上に、その「字形」が「読み（音声）情報」を持つだけでなく、「意味情報」や「用法情報」をも合わせ持つ文字だからである。さらに、1つの字形の持つ音声情報が単一でなく、音・訓で2つ以上あるものも多く、また、1字で1語として文中で使われるもの、熟語の構成成分として機能するもの、その両方の用法があるものがあり、実に情報量の多い文字であると言える。

日本人の子供が漢字を学習する際には、「読み」に当たる音声情報とその意味情報との結合体である単語を日常生活の中ですでに知っている状態から学習を始めるので、いわば既知の「読み－意味－用法」情報に「字形」情報を覚え足せばよいことになる。そこで、日本人の子供を対象とした「漢字のテスト」は、漢字の字形を見てその読みを答える「読みテスト」や読みから漢字の字形を再生させる「書きテスト」が長い間その主流となっていた。

これに対して、外国人学習者が漢字を学習する場合は、「字形」「読み」「意味」「用法」という4つの情報の全てを関連づけて覚えていかなければならないことになり、その途中にはいくつもの段階が考えられる。日本人と同じように読みと意味が結合した音声言語から学習を始める場合もあるが、大人の学習者にとって、コミュニケーション手段としての外国語学習に費やすことのできる時間は限られているのが普通であるから、まだ音声言語がそれほど定着しないうちに文字言語の学習に取りかからねばならない場合も多い。学習者は習ったばかりの情報同士をなんとか関連づけて覚えなければならず、その関連づけがうまくいかないと、知識がバラバラのまま記憶に格納されて、必要な場合に呼び出せないことになる。

たとえば、従来のような漢字の読みテストにおいて正解に至るまでには、外国人学習者は下図の1～4で示したような4段階のプロセスを経ていると考えられ、また書きテストにおいては、(1)～(4)のプロセスを経て正解に至ると考えられる。



漢字の読みプロセス

- 1 漢字の字形が正しく識別できる。
- 2 字形からその意味がわかる。
- 3 日本語でその意味にあたる言葉がわかる。
- 4 その言葉をひらがなで正しく表記できる。

漢字の書きプロセス

- (1) 読みが正しく認識できる
- (2) 読みからその意味がわかる
- (3) その言葉にあたる漢字がわかる
- (4) 字形が正しく再生できる

ここで、学習者がどの段階まで到達しているか、あるいはどの段階でつまづいているのかを評価するためには、従来のような漢字の読み書きテストだけでは十分ではない。外国人学習者を対象とした場合、漢字の習得段階をもっと細分化し、各段階を評価できるように、テスト形式・内容について検討する必要がある。また、漢字を習得する上で文中での用法（品詞や共起関係、送り仮名など）に関する情報をうまく使うことができれば、読みや字形の記憶再生に役立つと思われるが、それらの情報が漢字の学習項目としてどのように使えるかも検討しなければならない。

2. 研究の目的と方法

本研究では、外国人の初級学習者に対する日本語教育の立場から漢字の教材とテストに関して調査し、「字形」「読み」「意味」「用法」という4つの情報の関連づけという観点から学習項目およびテスト項目の抽出とその整理・分類を試みた。

調査方法としては、今までに行われてきた外国人学習者のための初級漢字教材およびテストを分析し、漢字教育のカリキュラムに照らして学習項目およびテスト項目を整理・分類する。今回の調査では、初級の漢字テストとして日本語能力試験⁽¹⁾の文字問題3・4級の問題と初級の漢字力診断テスト⁽²⁾、漢字教材として『Basic Kanji Book』Vol.1, Vol.2などを調査の対象とした。

3. 学習項目およびテスト項目の整理・分類

(1)字形、(2)意味、(3)読み、(4)用法という4つの情報別に、以下のように漢字の学習・テスト項目を分類・整理した。

- (1)字形情報処理
 - (1-1)字形の異同の識別
 - (1-2)字形の構造の識別
 - (1-3)読み・意味から字形の再生
 - (1-4)読み・意味から語形の再生
- (2)意味情報処理
 - (2-1)字形からの意味理解
 - (2-2)字形の構造からの意味理解
 - (2-3)語形・語構造からの意味理解
 - (2-4)文脈・用法からの意味理解
- (3)読み情報処理
 - (3-1)字形・意味からの読み
 - (3-2)字形の構造からの読み
 - (3-3)語形・意味からの読み
 - (3-4)文脈・用法からの読み
- (4)用法情報処理
 - (4-1)字形・意味からの用法理解
 - (4-2)語形・意味からの用法理解
 - (4-3)読み・意味からの用法理解
 - (4-4)文脈からの用法理解

各情報別に、学習項目およびテスト項目とその例をあげる。

(1) 字形情報処理

(1-1) 字形の識別

1. 類似字形の中から同一の字形を選ぶ。

例 話 : 読 語 (話) 詞 詩

2. 漢字の字形の異同を判断する。

例 電話・話す : ○

(1-2) 字形の構造の識別

3. 漢字の字形から共通の部分を探す。

例 古 回 知 吸 → 口

4. 同じ構造の漢字を選ぶ。

例 聞 : 取 道 店 (関) 買

5. 同じ字形グループに属する漢字を選ぶ。

例 男 () 勉 加

[分 (動) 切 反]

6. 同じグループに属さない漢字を選ぶ。

例 校 森 困 (私) 休

7. 部首を探す。

例 時 明 早 晩 → 日

(1-3) 読み・意味から字形の再生

8. 読みから正しい漢字を選択する。

例 かんじをかく。

{ (書) 聞 記 行 }

9. 類似形の中から正しい漢字を選択。

例 かれは { 字 (学) 字 } 生だ。

10. 漢字の部分を選択する。

例 雨 + () = ゆき

{ 口 口 (ヨ) エ }

11. 部分同士を組み合わせて漢字を作る。

例 日 + 月 = 明

12. 漢字の部分を書き足す。

例 ドアを (門) けてください。

13. 読みから漢字を書く。

例 あめ = ()

14. 意味から漢字を書く。

例 expensive = ()

(1-4) 読み・意味から語形の再生

15. 正しい漢字熟語を選択する。

例 { 元気 (天気) 病気 } がよくて暖かい。

16. 漢字熟語の部分を選択する。

例 友達に電 { 車 語 (話) } する。

17. 漢字を組み合わせて熟語を作る。

例 { 公 工 食 会 学 教 }

{ 場 室 社 校 園 堂 }

→ 公園 工場 ……

18. 組み合わせて熟語を作る漢字を探す。

例 (病) 院 電 (話)

気 会

19. 語の意味から漢字熟語を完成する。

例 birth date → 生年 (月) (日)

20. 正しい漢字熟語を書く。

例 (ゆうめい) な

(2) 意味情報処理

(2-1) 字形からの意味理解

21. 漢字を見て、その意味を選ぶ。

例 山 : tree river (mountain)

22. 反対の意味の漢字を選ぶ。

例 上 ↔ 中 (下) 左 半

23. 同じ意味の漢字を選ぶ。

例 開 == 終 (始) 出 入

24. 同じ意味グループの漢字を選ぶ

例 白 () 青 黒

[暗 (黒) 西 洋]

25. 同じグループでない漢字を選ぶ

例 夏 冬 (昼) 秋 春

(2-2) 字形の構造からの意味理解

(2-3) 語形・語構成からの意味理解

26. 熟語を意味の最小単位に分ける。

例 非人間的 → 非 [人間/的]

27. 接頭・接尾辞で反義語を考える。

例 親切 ↔ (不) 親切

有料 ↔ (無) 料

28. 接頭・接尾辞で語を作る。
29. 字の意味から熟語の意味を類推。

例 体育 () : 所 園 (館)
例 着る (to wear) + 物 (things)
→ 着物 ()

30. 漢字熟語の意味を理解する。

例 タイプ1 A+B 男女: 男+女
タイプ2 A→B 新車: 新しい車
教室: 教える室
タイプ3 B←A 帰国: 国に帰る
閉店: 店を閉める

31. 漢字熟語の意味構成を理解する。

例 有名大学=有名 (な) 大学
米留学=米 (に) 留学 (する)

(2-4) 文脈・用法からの意味理解

32. 同じグループの漢字熟語を選ぶ。

例 病院 () 会社 食堂
[住所 番組 (工場) 先生]

33. 同じグループでない漢字熟語を選ぶ。

例 医者 歌手 技師 (科学)

(3) 読み情報処理

(3-1) 字形・意味からの読み

34. 単漢字の読み (訓読み) を選択。

例 あした10時に来てください。
{きって きいて きるて (きて)}

35. 単漢字の読みをひらがなで書く。

例 かれは歌がじょうずです。

36. 同じ音のグループの漢字を選ぶ。

例 校 () 工 公
[号 (高) 合 強]

37. 違う音の漢字を選ぶ。

例 カイ: 開 回 (外) 会 階

(3-2) 字形の構造からの読み

38. 形声文字の音符を探す。

例 晴 精 静 → 青: セイ

(3-3) 語形・意味からの読み

39. 漢字熟語の読みを選択する。

例 空港 {くこう くうこ (こうこう)}

40. 漢字熟語の読みをひらがなで書く。

例 家族 ()

(3-4) 文脈・用法からの読み

41. 文中の漢字語の読みを選択する。

例 国に帰って結婚するつもりだ。
{けっこん (けっこん) けっこう けっこう}

42. 文中の語の読みをひらがなで書く。

例 来月からバスの料金が上がる。

(4) 用法情報処理

(4-1) 字形・意味からの用法理解

43. 漢字に送り仮名をつける。

例 新しい 古い 買う

44. 送り仮名から漢字を選ぶ。

例 () きい () さい

45. 同じ用法 (品詞) の漢字を選ぶ。

例 終 () 書 食
[(使) 短 物 館]

46. 同じ用法でない漢字を選ぶ。

例 重 長 古 (立) 高

47. 漢字を使って、熟語を作る。

例 新 → 新聞 書 → 辞書

48. 漢字を使って、文を作る。

例 朝 茶 飲 → 朝、お茶を飲む。

(4-2) 語形・意味からの用法理解

49. 漢字熟語に「する」をつけて漢語動詞として使われる用法

例 乗車 (○) 勉強 (○) 問題 (×) 電話 (○)

50. 漢字熟語に「な」をつけて漢語形容詞として使われる用法

例 有名 (○) 病気 (×) 便利 (○) 大切 (○)

- 51.漢字熟語の用法を総合的に理解。 例 親切な (○) 旅行な (×)
 する (×) する (○)
 だ (○) だ (○)
- 52.同じ用法の漢字熟語を選ぶ。 例 練習 () 質問 案内
 [問題 (留学) 住所]
- 53.同じ用法ではない漢字熟語を選ぶ。 例 物理 (親切) 化学 政治 経済
- 54.漢字熟語を使って、文を作る。 例 予約 北海道 旅館 旅行 →
- (4-3)読み・意味からの用法理解
- 55.漢字で表記するべき語を漢字にする。
 例 ふるいしろくのえいがをみたことがある。
 → 古い白黒の映画を見たことがある。

(4-4)文脈からの用法理解

- 56.共起関係から漢字の用法を選ぶ。 例 バスに () 大学を ()
 { 聞 見 乗 降 立 出 入 }
- 57.共起関係から熟語の用法を選ぶ。 例 図書館の () 時間は9時だ。
 { 開始 開場 公開 (開館) }

4. 今後の課題

初級外国人学習者向けのテスト・教材を分析した結果、以上のような57タイプの学習項目およびテスト項目が抽出された。今後さらに、国内あるいは海外の日本語教育機関を対象として、どのような漢字教育・テストが行われているか、学習項目・テスト項目として他にどのようなものが考えられるか、などについてアンケート調査および聞き取り調査を実施し、情報をさらに整理・統合していきたい。

また、より効率的な漢字の学習方法・指導方法を考えていくためには、リストアップされた学習項目・テスト項目間の重要度・困難度の違いについても検討する必要がある。

注

- (1)日本語能力試験は、国際交流基金および日本国際教育協会によって年1回実施されている外国人のための日本語テストで、1級～4級に分かれている。試験は、文法・読解、文字・語彙、聴解の3つのパートからなり、文字に関しては、4級が00字、3級が300字、2級が1000字、1級が2000字程度の漢字を習得しているレベルと考えられている。大まかに言うと、3・4級が初級、2級が中級、1級が上級と考えることができる。
- (2)初級漢字500字程度の学習を終えた外国人学習者の漢字運用力および漢字学習能力を測るために考案された診断テスト。参考文献2.加納(1995)を参照のこと。

参考文献

1. カイザー・シュテファン・他：外国人のための効果的な漢字・読解教育を支援する教育データベースの開発(課題番号07207102) 文部省科学研究費補助金重点領域研究人文科学とコンピュータ・コンピュータ支援による人文科学研究の推進－1995年度研究成果報告書 1996：53-59.
2. 加納千恵子・他：パーソナルコンピュータを利用した外国人学習者の漢字力テスト(CAT)の開発 文部省科学研究費補助金一般研究(B)(課題番号04455003)研究成果報告書 1995.
3. 加納千恵子：非漢字圏学習者の漢字力の発達過程を評価する試み 日本語教育方法研究会誌3-1 1996：24-25.
4. 加納千恵子：初中級学習者に対する漢字指導の一試案 筑波大学留学生センター日本語教育論集 12 1997：139-153.
5. 加納千恵子：漢字テストの評価項目について 日本科学教育学会第21回年会論文集 1997：127-128.